

2020/07/01 – 2020/07/17

# プレゼンの作り方 (参考例)

有賀 隆行

ゲノム・機能分子解析学講座

(旧微生物学講座)

※統合医学テュートリアルの講義用に作った資料のうち  
※文献紹介発表の際のスライドの作り方を独立させました。

# 全体構成を考慮してから作る

大きな紙に白い四角をたくさん書いて、中身を埋めていく。

全体のページ数は発表時間で前後する(1ページあたり1~2分が目安)

結果の数だけ④~⑦を繰り返す(理論や方法は序盤にまとめてもよい)

ページが多くなりすぎるときには、目次のページを作って、各セクションごとに差し込むと良い。

「ご清聴ありがとうございました」だけのNo informationなスライドは作らない。

←このページで発表おわりというサインとして使える

①大きな背景

④方法1

⑦解析結果1

②これまでにわかっていたこと

⑤結果1

⑧全体を通じての考察・展望

③これまでにわかっていないこと  
=本研究の目的

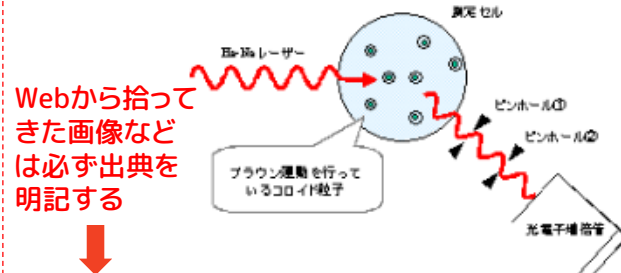
⑥基礎理論  
または前提知識

⑨まとめ  
➤ 最後のまとめスライド  
➤ は箇条書きにする。  
➤ このスライドだけを見て  
➤ 質問できるように作る。  
ご清聴ありがとうございました

- 文献紹介の場合には、結局の所、論文の構成をそのまま使うのが一番よくできていることが多い。
- 参考:「英語論文の書き方・読み方」@有賀HP [http://mb.med.yamaguchi-u.ac.jp/ariga/English\\_paper\\_2019.pdf](http://mb.med.yamaguchi-u.ac.jp/ariga/English_paper_2019.pdf)
- 聴衆のレベルに応じて、論文に直接書かれていない、聴衆に必要な前提知識を挿入することが必要(聴衆によって異なる発表となる)。

# このページの目的を書く (タイトル欄に結論を書く流儀もある)

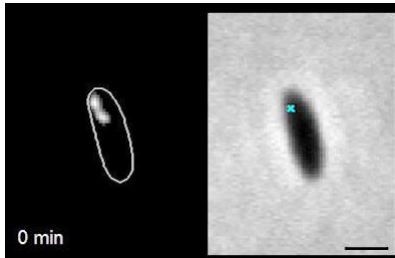
## 方法(具体的な手法を記載する)



<https://www.otsukael.jp/weblearn/chapter/learnid/65/page/3>

一度前の方のページで詳しく説明した手法でも、結果の横に小さく実験系の模式図や、実験試料の絵を載せておくと伝わりやすい。

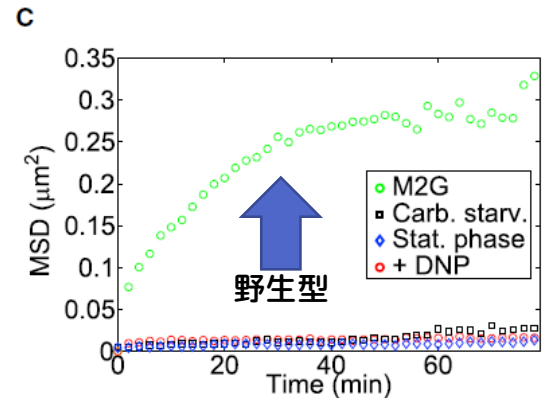
## 生のデータ(具体的な以下略)



動画があるときは積極的にのせて見せる。  
再生や解説するのを忘れずに。(聴衆に動画を見る時間を与える必要がある)

↑  
オブジェクトの配置→  
左揃えや、上下中央揃えなどの機能を活用し  
まくる←重要

## 解析結果(具体的な図のタイトルを記載する)



[Parry Cell 2014]

## わかったこと

- ✓ ひとことで書けるならポイントをまとめても良い。
- ✓ 文章にする必要はない。文字を多くしすぎない。
- ✓ 各ページの左上から右下に向かって流れを作る。
- ✓ 載せた絵はかならず説明する。説明をするなら絵を載せる。1対1対応ができれば原稿が不要となる。

原稿は必ず作ること。作った原稿は、発表では絶対読まない。丸暗記もしない。  
(原稿を作る作業によって、話の流れが整理され、図との対応関係がはっきりする)

この場所にこのページの結論を書く。タイトルとこの部分だけを読めば、うたた寝しててもすべてを理解した気分になれる。

次のページ内容への「つかみ」をこのあたりに書いてもいい

↑アニメーションにはせず、ずっとのせておく(一番大事なところが一瞬しか出てこないパターンはよくない)

# プレゼン準備の流れ

- ① 全体構成を考える←いちばん大事な工程
- ② スライドを全部作る。
- ③ 発表原稿を書く。
- ④ スライドを指し示しながら自分で書いた原稿を読んでみて、しゃべる内容(原稿)とスライドの内容が1対1対応をしているか確認する。
  - ✓ 口頭で説明しない図が、無駄にスライドに出ていないようにする。
  - ✓ 逆に、スライドに書かれていない内容を長時間しゃべりつづけてたりしない。
- ⑤ よどみなく喋れるような、論理の流れになっているかどうか確認する。
  - ✓ これができていると、発表中にページを戻したりしてしまう。
  - ✓ 各ページでのラストの台詞が、次のページへの導入になっているとBest!
- ⑥ スライドか原稿のどちらか(両方)を手なおして、④、⑤を調整する。
- ⑦ 調整が終わったら、原稿を見ずに発表練習する。
  - ✓ ⑥の調整が完璧に終わっていれば、スライドを見ながら順に説明するだけで喋れて、原稿は既に不要になっているはず。

②の工程で発表当日を迎えることの無いようにしましょう。  
(※医学部の教授にはこのタイプの人が多いがマネしないように!)

白い□を使って論文の図の一部を隠したりすると良い

- 原稿は必ず書くが、発表本番では絶対に読まない、丸暗記もしない。
- スライドを見たら、それを順番に説明するだけで発表できる形にしておく。
- 喋るだけじゃなくて、聴衆の頭の中に内容を注入するまでが発表です。